

## 設計コンセプト

- ・奥会津の医療拠点として、地域住民から長く愛される施設づくり
- ・施設を利用する全ての人々が安全で利用しやすい施設づくり
- ・自然災害に強く、医療拠点としての機能が継続的に維持できる施設づくり



宮下病院建替基本・実施設計業務委託

## (1) 地域の人々の安全・安心を支える施設の提案

### ① 過疎化や高齢化が著しい奥会津地域において、使いやすさ、分かりやすさへ配慮した、利用者の安全・安心を支える施設の提案

転倒防止のために、施設の内外を問わず、段差が無く滑りにくい床とし、体を保持するための手摺は、可能な限り連続させます。浴室の脱衣棚の隔板に穴を開けただけの手摺等、何よりも弱者の安全を第一に環境のバリア「障害」を取り除きます。

また、音声案内、十分な照度、表示文字の拡大、低い位置でも操作可能な車いす使用者用のスイッチや引手、自動ドア及び体で押して出入りできる建具等、ユニバーサルデザインに配慮します。

受付や会計の機械化により、「保健・医療・福祉」の関連サービス等各種の窓口が増え、どこに行けば良いのか分からない場合があります。各種の相談窓口を患者支援センターとして、隔て板によりプライバシーに配慮し、同伴者を含めて二つの椅子のある全窓口カウンターを数区毎設けます。

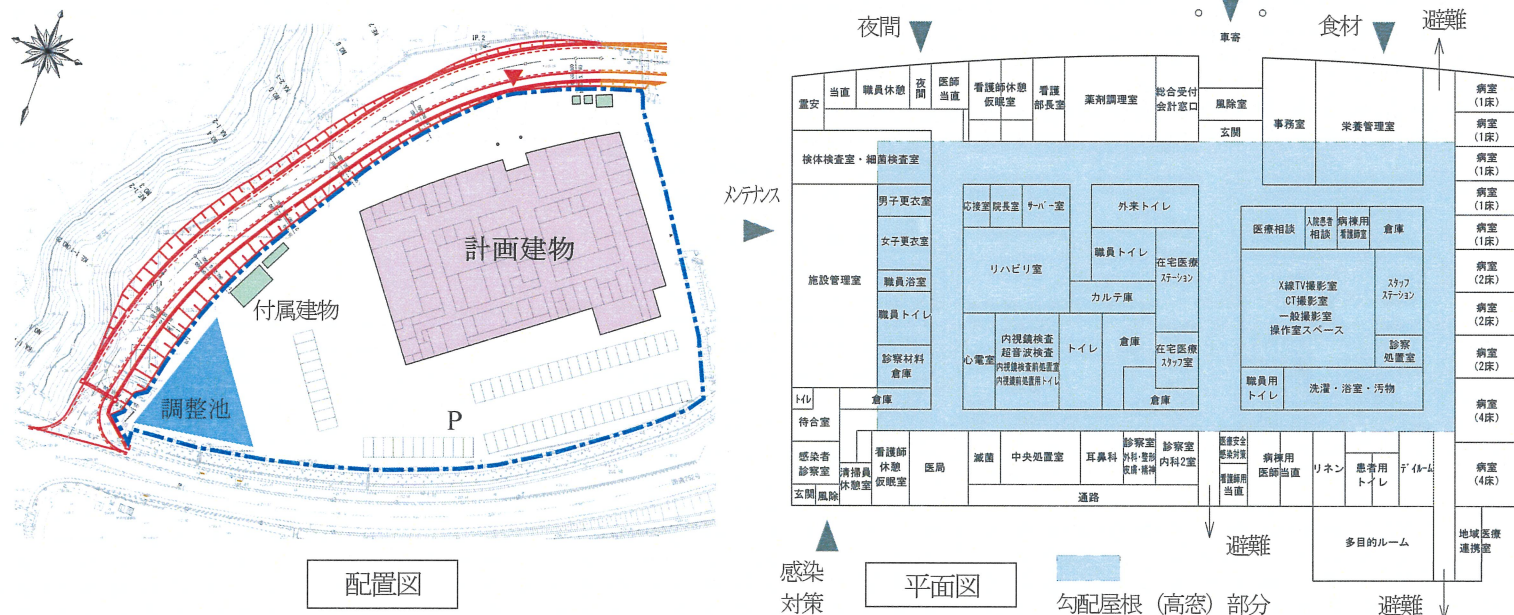
高齢者でもわかりやすい動線計画とし、適度にベンチ、休憩スペースを設けます。

### ② 地域生活を支えるための在宅医療や、診療圏唯一の入院機能を持ち、救急患者の対応が可能な医療機関として、地域に密着し、開かれた施設の提案

本施設の診療圏は、三島町、柳津町、金山町、昭和村となりますが、外来患者の約6割、入院患者の8割以上が会津若松市等の診療圏外へ流出している現状を鑑みますと、充実した病院機能は勿論、地域住民が気軽に立ち寄れる交流場所としての一面も必要と考えます。

リハビリエリアは、外来エントランスに近接した位置とし、将来的な通所リハビリテーションの実施を想定した十分なスペースを確保します。在宅医療ステーションは、訪問看護ステーションの設置も可能な十分なスペースを確保します。

また、地域を交えた医療研修などが行える多目的ルームを整備します。



## (2) 奥会津地域の特性と調和し、特別豪雪地帯を考慮した施設の提案

### ① 周囲の緑豊かな自然と調和し、温もりや安らぎ等が感じられる内観・外観デザインや構造に関する提案

耐久性及び地震時の変形等を比較して、有利な鉄骨鉄筋コンクリート造（SRC造）平屋建てとし、建物中央部は吹抜として採光・排煙・換気が有効になるようにします。

吹抜の上屋は、当該地方に多く見られる切妻屋根として、周囲の景観に合わせ地域住民に親しみを感じてもらえるようなデザインとします。

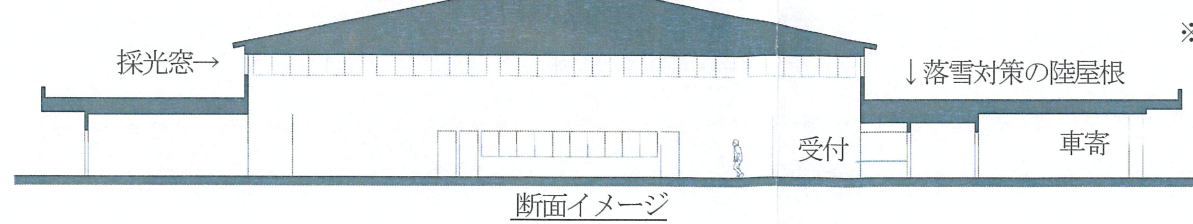
玄関廻りは、道路境界線の曲線に合わせて外壁も曲面とし、腰壁部はメンテナンスを考慮して大波縦リブ状のコンクリート打放し、無色防水塗装仕上、壁面は部分的にCLT 堅張、無色防水塗装仕上と地域住民が馴染み親しんでいる桐の花・こね鉢・ろくろ細工・アケビの籠・刺し子・遺跡出土品・からむし織等を立体的に模ったデザインをコンクリート打放しの上、着色防水塗装仕上とします。また、ウッドALC等を部分的に採用し、温かみのある意匠を計画します。

内観は、居室腰壁に地場産木材（会津桐）を縦張り無色塗装仕上とし、室名板や棚の一部に桐材を採用します。

### ② 特別豪雪地帯である奥会津地域の降雪や積雪を考慮した施設の提案

吹抜屋根以外、軒の出を深くした陸屋根として、施設の長寿命化や落雪を極力抑え安全な施設とします。

奥会津の景観に馴染む勾配屋根↓



断面イメージ

技術提案書（様式5）

※印の欄は記入しないでください

受付番号
4

## (3) 災害や感染症に強い施設の提案

### ① 奥会津地域における医療の拠点となるよう、豪雨、豪雪、地震などの災害発生時においても患者や職員の安全確保、通常と同程度の医療機能を維持できる災害に強い医療施設とする提案

道路及び敷地境界線の内側にグレーチング付きの側溝を張り巡らし、敷地北東部隅に考えている調整池へ雨水や雪解け水を導きます。また、施設出入口全箇所の外部及び内側にもグレーチング付き側溝を設けます。豪雨の際、南側から雨水が流れてくるのが想定されるため、はね上げ式の止水板を設置します。

積雪対策は、敷地内施設以外の空地全面に地下水を利用した消雪設備（無水）を設ける外、吹き溜りの除雪も考え、施設周囲は空地を広く確保します。

地震による被害対策について、耐震安全性の目標による構造体はⅡ類、建築非構造部材はA類、建築設備は甲類を求められていますので、構造～設備まで業務は勿論、社内審査をより厳格に行います。

万一の場合を考慮し、井戸水の利用、雨水の貯留による雑用水の備蓄、非常用電源を備えます。非常用発電機は、豪雨時においても機能を継続できるように嵩上げ設置とし、屋上への設置も検討します。

建築設備を含む医療機器類の転倒防止対策も建築の段階で考慮した設計とします。

空調室外機置場は、深い軒下空間等、積雪の影響が少ない位置設けます。

### ② 感染症の発生に備え、感染症患者の受け入れを十分に考慮し、感染拡大時にも、通常と同程度の医療提供ができる施設の提案

屋根からの落雪対策として、玄関廻りは屋根付き車寄せ、病室外部以外は施設に沿ってアーケードを設けます。感染症対策として、専用出入口、個室待機室（1床室）、専用待合室、職員用の防護着脱スペース及び診療室を施設内の一部（北東側）に設け、感染症対策専用の備蓄倉庫（医療備品や消耗品）を整備します。また、消毒や殺菌の作業にも耐え

得る内装仕上材とします。いつでも誰でも使える手洗いを部屋は勿論、共用廊下の各所に設け、ペーパータオル、自動水栓、手で触らずに開閉できる自動扉を採用します。

## (4) 県産材の積極的な活用やエネルギー性能が高く持続可能性に優れた施設の提案

### ① 本県の森林資源の活用や、消費エネルギーの抑制等に配慮した施設の提案

居室の腰壁及び外壁の一部に県産木材（会津桐等）を積極的に採用し、設計の段階で木材供給業者と、想定される使用量の確保等について情報共有し、打合せを密に実施します。

開口部複層ガラス、庇、袖壁の設置、断熱の強化、LEDによるタスクアンビエント照明、人感センサー、高効率変圧器、昼光センサーによる照明制御、全熱交換器、太陽光等が有効です。日射遮蔽や吹抜を利用した自然換気も考慮いたします。

暖房設備は、地中熱によるヒートポンプエアコンおよび床暖房を提案します。

### ② インitialコストやランニングコストに配慮した施設の提案

採用する製品は、日常市中で流通しているものとし、購入後、支障が発生した場合は、即交換ができるように特別高価ではない普及品とします。

建築物については、建築・設備・防火共3年毎に点検し、不具合があれば軽微なうちに改善することによりランニングコストも圧縮できます。設計初期にZEB認証の目標（ZEB、ニアリー-ZEB、ZEBレディー）を定めます。

## (5) 将来的な施設の可変性に関する提案

### ① 医療制度改革や医療技術の進歩、医療ニーズ等の将来的な変化に柔軟に対応できる施設の提案

間仕切りが少なく、レイアウトの妨げとなる柱や壁が少ない設計とすることで、家具の配置の変更だけで済み、初期投資も小さく抑えられ、LCCの低減にもなります。（カーテンの向こうには、処置や点滴中の患者がいる場合があるので、通常はオープンであってもプライバシーが必要な場合には扉を閉めれば個室になるように配慮します）

### ② 将来的な病床機能の転換等、可変性を考慮した施設の提案

将来の変化に対応できる鉄骨鉄筋コンクリート造（SRC造）とすることで、耐力壁や開口部も柔軟に考えられます。

## (6) その他の提案

災害が発生した場合、受け入れや派遣に対応できる拠点病院としての施設づくりを目指します。

資機材等の備蓄や応急収容の為のスペースを確保し、外部からの補給が滞っても簡単には病院機能を喪失しない自己完結型の施設を計画します。（近接地へのヘリポート整備も検討します）

将来のメンテナンスを考慮し、設備配管は、床下ピット利用とし、設備スペースに余裕をもたせます。